

## (2) 実践記録

### 〈1〉第1・2学年実践記録

1 単元名・教材名 「I like bananas. ～好きかな？嫌いかな？～」

2 単元の目標

- 好きなものを紹介する表現や好きかどうかを尋ねる表現に慣れ親しむ。 (知識・技能)
- 好きなものを紹介する表現や好きかどうかを尋ねる表現を使って、友達とコミュニケーションをする。 (思考力・判断力・表現力)
- 好きなものを紹介する表現や好きかどうかを尋ねる表現に関心を持ち、進んで友達とコミュニケーションをしようとする。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・好きなものを紹介する表現や好きかどうかを尋ねる表現に慣れ親しんでいる。	・好きなものを紹介する表現や好きかどうかを尋ねる表現を使って、友達とコミュニケーションをしている。 (1年) 友達や先生のサポートを受けて伝えている。 (2年) 友達と助け合いながら、伝えたいことを伝えている。	・好きなものを紹介する表現や好きかどうかを尋ねる表現に関心を持ち、進んで友達とコミュニケーションをしようとしている。

4 関連する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。
話すこと [やり取り]	イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。

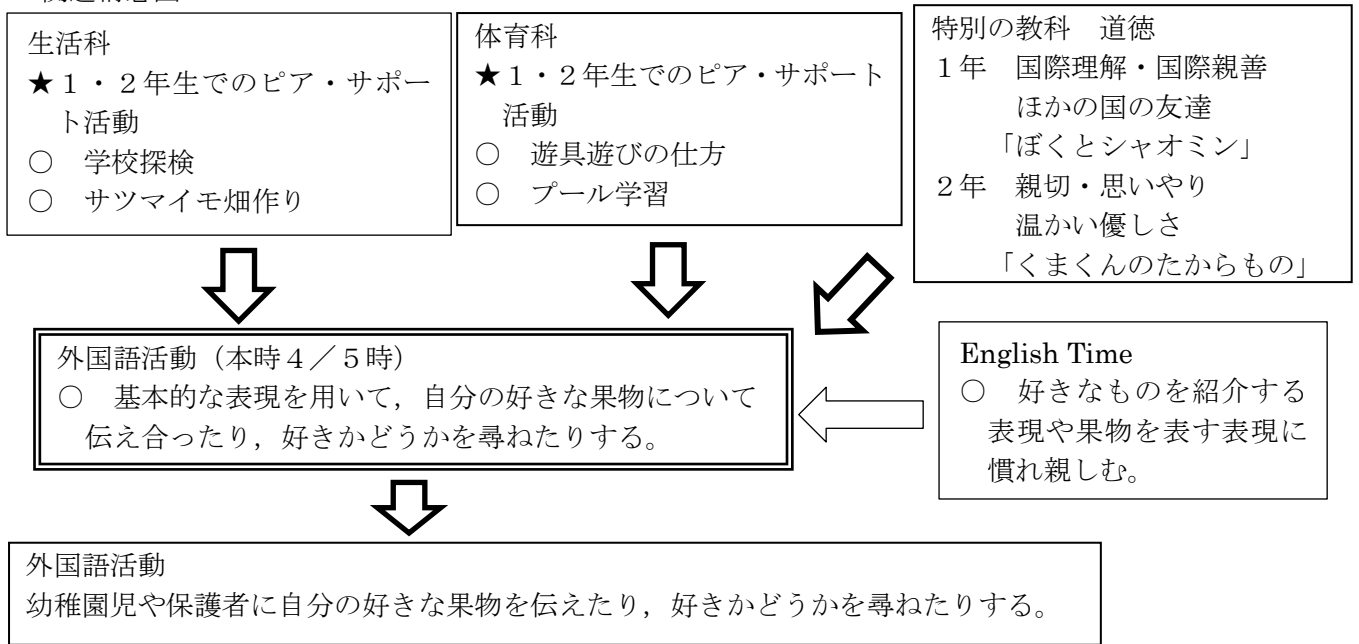
5 単元観

本単元では、相手に自分の好きなものを紹介したり、相手に好きかどうかを尋ねたりする活動を通して、“I like~.” や “Do you like~?” という表現に慣れ親しむことができるようにする。1年生と2年生は4月からピア・サポート活動により、生活科の学校探検、遊具の使い方の説明、サツマイモ畑作りなどを共にしてきており、2年生は1年生と交流して教えてあげたいという思いを強めている。また、1年生は、2年生と一緒に学習することで、身近な手本を前に学びを深めている。

本単元で行う好きなものを紹介する活動は、友達に自分のことを知ってもらったり、友達のことを新たに知ったりすることのできる活動である。1・2年生が互いに好きなものを紹介したり尋ねたりすることにより、異学年との英語での交流の楽しさを感じられるようにしたい。さらに、幼稚園児や保護者など、より広い世界の人々と交流したいという思いを膨らませることができるようになりたい。

本単元では、まず、1年生と2年生が好きなものを紹介することを知り、自分のことを伝えたいという気持ちを育ませた上で、好きなことを紹介する表現や果物を表す表現を学習する。BINGO やフルーツバスケットなどの活動を通して、楽しみながら自然と英語表現に慣れ親しむことができるようにしたい。

6 関連構想図



7 本時案

(1) 本時のねらい

- ・ “I like~.” “Do you like~?” などの表現を用いて、進んで友達とコミュニケーションする。
- ・ 1年生：2年生や先生のサポートを受けて自分の思いを伝える。
- ・ 2年生：友達と助け合いながら自分の思いを伝える。

(2) 展開 (第4時)

学習活動	教師の指導・支援 (●HRT1, ◆HRT2, ■HRT3, ▲ALT)	学習評価
—各学年で— 1 Greetings	(1年●■, 2年◆▲) ●◆■▲ 英語で挨拶をした後、気分や天気、曜日、日付などについて尋ねることで、日常的に使える英語表現に慣れ親しむことができるようにする。	
2 Warm up 「Do you like broccoli?」	●◆■▲ 動作や表情なども使いながら楽しく歌うことで、本時の学習に楽しみな気持ちができるようにする。また、しっかり声を出すことができるようにする。	
3 Review	●◆ チャンツのリズムに乗りながら発音することで、楽しく基本的な表現を復習できるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     ・I like (果物) .                      ・Do you like (果物) ?                 </div> ■▲ 困っている児童に声かけをしたり、一緒に発音したりすることで、全員が声を出して復習できるようにする。 ▲ 間違いやあいまいな発音は、聞いて復唱させることで正しく発音できるようにする。	
4 Aim	Aim 1年生 2ねんせいといっしょにえいごをたのしもう。 2年生 I like~.をつかって1年生とえいごをたのしもう。 ●◆ 本時で取り組む Aim について話し合い、めあてや見通しをもって取り組むことができるようにする。	

—合同で—

5 Activity①

・ lucky card game

- ◆ デモンストレーションを見せることで、ゲームのやり方を知り、スムーズに活動できるようにする。
- ◆▲ 果物のイラストを掲示しておくことで、話すときや聞き取るときの手がかりとなるようにする。

A : Do you like (果物) ?  
B : Yes, I do. / No, I don't.  
A : Here you are.(Yes でも No でもカードを渡す。)  
B : Thank you.  
A・B が交代して行う。

- ◆■ 表現に困っている児童がいたら、一緒に声を出すなどして、活動できるようにする。
- ▲ 聞き取ることが難しい児童に対して、ゆっくり発音して正しい表現を聞き取ることができるようにする。
- ▲ 間違いやあいまいな発音は、聞いて復唱させることで正しく発音できるようにする。

6 Activity②

・ BINGO

- ◆■▲ Activity①の中でよいと思った児童の姿を認め、新たなめあてをもって活動できるようにする。
- ◆ デモンストレーションをして見せることで、ゲームのやり方を知り、スムーズに活動できるようにする。

A : I like (果物) . Do you like (果物) ?  
B : Yes, I do. / No, I don't.  
B : Do you like (果物) ?  
A : Yes, I do. / No, I don't.

- ◆■ 表現に困っている児童がいたら、一緒に声を出すなどして、活動できるようにする。
- ▲ 聞き取ることが難しい児童に対して、ゆっくり発音して正しい表現を聞き取ることができるようにする。
- ▲ 間違いやあいまいな発音は、聞いて復唱させることで正しく発音できるようにする。

7 Comment time

- ◆ 自分の頑張りを振り返るとともに、相手の学年がどのような思いをもって活動していたのかを知ることができるようにする。

・ 1・2年生と一緒に英語ができて楽しかったです。  
・ ○○さんが～していてすごいと思いました。  
・ 大きな声で言えてよかったです。

- 1・2年での交流を踏まえて、他にどんな人との交流がしたいかを話し合い、他との交流へ視野を広げたり意欲を高めたりすることができるようにする。

8 Greeting

- ◆■ できるようになったことや頑張っていた姿を称揚することで、交流会への意欲を高められるようにする。
- ▲ 発音に関してよかったことを伝え、交流会に向けて意欲をもつことができるようにする。
- 気持ちのよいあいさつをすることで、次時への意欲を高めることができるようにする。

◇ 好きなものを紹介する表現や好きかどうかを尋ねる表現に関心を持ち、進んで友達とコミュニケーションをする。

【主体的に学習に取り組む態度】  
(発言・行動)

## 8 板書計画

Greetings	<u>1ねんせいの Aim</u> 2ねんせいといっしょにえいごをたのしもう。	I like~.	果物絵カード	果物絵カード	果物絵カード
Warm up			Do you like~?	果物絵カード	果物絵カード
Review	<u>2年生の Aim</u> I like~.をつかって1年生とえいごをたのしもう。			果物絵カード	果物絵カード
Aim			果物絵カード	果物絵カード	果物絵カード
Presentation			果物絵カード	果物絵カード	果物絵カード
Practice			果物絵カード	果物絵カード	果物絵カード
Activity			果物絵カード	果物絵カード	果物絵カード
Comment time			果物絵カード	果物絵カード	果物絵カード
Greetings			果物絵カード	果物絵カード	果物絵カード

## 9 研究の視点から実践を振り返って

### 言語活動の工夫

#### 低学年の外国語活動について

入学当初の1年生は、英語を楽しみながら進んで話す児童と、恥ずかしくて声を出ることができない児童や英語に対する関心が低い児童との差が顕著である。これは、本校には英語特区で英語に慣れ親しんできている児童と英語にあまり触れていない児童と一緒に入学してくるためである。自分の思いや考えを伝え合うことができるようにするために、まずは英語を話すことや聞くことへの抵抗を少なくなるようにする必要があったと考えた。そのため、チャンツのリズムに合わせて単語を言ったり、DVDを見ながら一緒に歌ったりして、全員と一緒に楽しく声を出せるよう工夫した。そうすることで、入学前にあまり英語に触れていない児童でも、周りに合わせて自然と英語を話せるようになってきている。また、低学年という発達段階に合わせて、声を出すだけでなく、動作化したりジェスチャーをつけたりしながら英語表現を習得した。

DVDを見ながら歌を歌う児童



DVDを見ながら楽しく体を動かす児童



#### ゲームについて

低学年では、英語表現に慣れ親しむために、何度も英語を言うことのできるようなゲームをたくさんする。たとえば、果物を表す表現を一つずつ言いながら進んでじゃんけんをするゲームや、言われた果物のカードをとるカルタのようなゲームなどを行った。これらは、好きかどうかなど、自分の思いを表現するゲームではない。だが、英語表現に慣れてきてからは、自分の思いを伝えたり友達の思いを聞いたりするゲームを取り入れる。本単元では、2つの果物を見て、好きなものを選んで声に出したり、好きかどうかを尋ねるBINGOを行ったりした。このようにして、だんだんと自分の思いをもって行うゲームへと移行していった。低学年の外国語活動では、このようなスモールステップで学習していくことにより、児童らが安心して活動し、英語の楽しさを感じやすくなると考える。



・ 異学年との交流へ目を向ける活動について

これまでに、1・2年生でのピア・サポート活動として、学校探検、サツマイモ畑作り、プール学習などを行っていた。それぞれの活動の中で、1年生が2年生の真似をしてできるようになったり、2年生が1年生の手本となるよう意欲的に学習したりして、学び合う姿が見られた。そのため、外国語活動でも学び合う姿を期待し、本単元では1・2年生が合同で活動を行った。単元の初めは、各学年で学習をし、英語を話すことや友達とコミュニケーションをすることの楽しさを感じられるようにした。また、同時に英語を話すことに対して自信をもつことができるよう、段階に応じて一人で話す場面を作ったり、認める声かけを行ったりした。そうすることで、児童がもっと英語を話したいという気持ちを持ち、「1年生と一緒にやりたい。」「2年生とやってみたい。」という声があがった。それを受けて、本時ではそれぞれの学年に応じためあてをしっかりとをもって活動することができるようにするために、**Review**と**Aim**を1・2年生で分かれて行った後、1・2年生が合同で学習を行った。1年生が2年生のサポートを受けて英語を話すことができたり、2年生が手本となり張り切って活動したりすることができた。ここでは、異学年での交流の楽しさを十分感じている様子だった。本時の振り返りの場面で、「他にどんな人と英語で交流してみたいか。」と尋ねたところ、他の学年の友達、幼稚園児などという思いが出てきた。これを受けて、幼稚園児との交流も実現した。幼稚園児との交流では、1・2年生での活動を簡易化したカードゲームを行ったり、一緒に英語の歌を歌い、踊ったりした。より小さい学年との交流ということで、膝を曲げて目線を合わせて聞いたり、ゆっくり話したりする1・2年生の姿が見られた。さらに、児童の意欲や思いを大切にし、より広い世界に目を向けられるようにするためには、一つひとつの交流での達成感や自信を感じられるような、教師の声かけや支援の仕方の工夫が必要であると考えた。

異学年交流を楽しむ1・2年生児童



カードゲームを行う小学生と幼稚園児



10 反省と考察

1・2年生での異学年交流をすることにより、活発に活動することができた。児童らが、英語で伝える喜びを感じ、さらに幼稚園児や他の学年の友達と交流したいという思いをもったことが、最大の成果である。また、始めの**Review**と**Aim**を1・2年生が分かれて行うことにより、本時で何をすればよいかという目的意識やめあてをはっきりもつことができた。

一方で、特に**Activity**については課題が残った。本時で行ったラッキーカードゲームでは、相手に好きかどうかを尋ねて、相手の答えが“**Yes.**”であっても“**No.**”であっても果物カードを渡した。「慣れ親しむ」ことを目的とする場合には、このようなゲームでもよいが、コミュニケーションを求めるのであれば、“**No.**”のときにはカードを渡さないのが自然である。目的に応じて活動のルールや進め方を変えていく必要があると改めて感じた。

本時では、“**I like~.**”などの表現を使うことができおり、知識・理解の目標は達成されていた。また、相手のことを考えて、ゆっくりと目を合わせて話すことができおり、学びに向かおうとする姿も見ることができた。しかし、「～さんは柿が好きなんだな。」というように、児童が「思考」する場面が少なかった。「～さんは好きなのかな?嫌いなのかな?」という内容についての気付きが見られなかった。ゲームの中でいかに思考する場面を作るかということを考えていかなければならない。

1・2 年生	unit	単元名	I like, because ～好きかな? 嫌いかな?～	5	時間単元
<p><b>単元目標</b></p> <p>【知】好きなものを紹介する表現や好きかどうかを尋ねる表現に慣れ親しむ。                  【思】好きなものを紹介する表現や好きかどうかを尋ねる表現を使って、友達とコミュニケーションをする。                  【主】好きなものを紹介する表現や好きかどうかを尋ねる表現に関心をもち、進んで友達とコミュニケーションをしようとする。</p>					
<p><b>つながる学び</b></p> <p>・生活科「学校探検」「サツマイン制作り」 ・体育科「遊具遊びの仕方」「ボール学習」                  ・特別の教科 道徳 1年「ほくとジャオミン」 2年「くまぐんのかからもの」                  ・English Time</p>					
◎	人	<p>評価(◎達成者、△未到達者の人数と氏名を記入)</p>			
△	人				
<p><b>ねらい</b></p> <p>① 好きな果物を紹介したり、好きかどうかを尋ねる活動をする。見通しや思いをもつ。果物を表す表現を知る。</p> <p>② 好きなものを紹介する表現を知る。</p> <p>③ 好きかどうかを尋ねる表現を知り、友達に尋ねる。</p> <p>④ “I like～.” “Do you like～?” などの表現を用いて、進んで友達とコミュニケーションする。</p> <p>⑤ 幼稚園児や保護者に好きな果物を紹介したり、好きかどうかを尋ねたりする。</p>					
<p><b>帯活動</b></p> <p>絵本“/But I like you.”                  Song“Do you like broccoli?”</p>					
<p><b>導入</b></p> <p>・果物を表す表現を知る。                  ● fly sweater game                  ● fruits basket</p>					
<p><b>中心活動 Activity</b></p>					
<p><b>評価場面</b></p> <p>fly sweater game(知)                  fruits basket(知)</p> <p>好きなフルーツ集まれ(思)                  stand up game(知)</p> <p>lucky card game(思)</p> <p>BINGO(主)</p> <p>BINGO(主)</p> <p>BINGO(主)</p>					
<p>●「自分の思いを伝える」「相手の思いを聞く」活動 ▲「思考する」活動 ■英語表現を「活用する」活動</p>					
<p><b>単元ゴールの言語活動</b></p> <p>幼稚園児や保護者に好きな果物を紹介したり、好きかどうかを尋ねたりする。</p> <p>◎(顕著に目標達成)の具体的な姿</p> <p>Do you like～? やI like～を使って、自分から進んで他者と関わろうとしている。</p>					
<p><b>必要な表現</b></p> <p>I like.                  Do you like-?                  Yes, I do. / No, I don't.                  Hello.                  I see.                  Thank you.</p>					
<p><b>必要な語彙</b></p> <p>果物</p>					